

平成24年度 まち・きらきらセミナー 第2回概要

平成24年12月14日 18:00～20:00

市民活動ネットワークセンターみさわ 大会議室

1. 講師	NPO法人 あおもりNPOサポートセンター 理事長 田中 弘子 氏
2. テーマ	まち・きらきらセミナー ～出会う つながる 動き出す～
3. 内容	<p>○受講生自己紹介</p> <p>セミナーに参加しようと思ったきっかけや意気込みを一言加えて、自己紹介をしていただいた。</p> <p>○講師紹介</p> <p>弘前市において女性初の行政管理職として、中央公民館長・市民会館館長を務め、在職中より各種ボランティア活動に積極的に取り組み、まちづくりや人づくりのネットワークを推進している。</p> <p>また、きらきらセミナー第1弾の講師であり、今回は女性の視点を生かしたまちづくりなどについてご指導していただく。</p> <p>○まち・きらきらセミナー第1期生による再現報告会</p> <p>今回の参加者で1期生の修了生がいるため、1期生がどのように活動を進めて、どこに女性の視点を取り入れたかを、寸劇による報告会をしていただいた。</p> <p>◆第1期生による再現報告会◆</p> <p>(岩本) 皆さん、こんばんは！6時のニュースの時間です。今日は、まち・きらきらセミナーを受講した、ウィメンズヴィジョンの皆さんの様子をご紹介します。現場から中沢アナに紹介していただきます。現場の中沢さん！</p> <p>(中沢) はい！中沢です！</p> <p>(岩本) そちらの様子はいかがですか？</p> <p>(中沢) はい。今日は会場に入りきれないほどの報道陣が！皆さん大変緊張しております。それでは私中沢から報道陣についてインタビューをしてみます！ウィメンズヴィジョンの名前の由来について坂岡アナからお伝え下さい。</p> <p>(坂岡) はい。私たちのグループ名、ウィメンズヴィジョンは、女性の目線という意味で、女性ならではのアイデアが出せるかと思い、つけさせていただきました。</p> <p>(岩本) 素敵な名前ですね。</p> <p>(中沢) 本当に素敵ですね。続きまして、情報誌のテーマについても、坂岡アナお願いします。</p> <p>(坂岡) はい。私たちが選んだ情報誌のテーマは、1時間の海外旅行、i n M I S A W Aです。三沢市には、世界の料理を味わえるお店がたくさんあります。そこで、海外に行きたい、でも行けない！そんなあなたにお昼のひと時で海外に気分が味わえる、幸せなランチタイ</p>



ムを気の合う仲間と過ごせるお店をリサーチし、紹介しています。

(中沢) どういった点を工夫しましたか？

(坂岡) はい。お店の紹介、宣伝にならないよう、三沢市内の地図ではなく、セミナーの講師をしていただいた田中先生からのアドバイスにもあり、世界地図を使い三沢市の特色を出せるようにしました。

(中沢) それは素晴らしい企画でしたね。次は、情報誌の内容について、小比類巻アナからお伝えください。

(小比類巻) はい。情報誌の内容については、国際色豊かな特徴を生かし、三沢市ならではの面白さをPRすることで、三沢市の活性化につながればと思い、願いを込めて作成しました。さらに、三沢の特産品情報として、ほっき貝のレシピを載せて三沢らしさを引き出しました。ぜひ三沢の味覚を味わっていただきたいと思います。

(岩本) 中沢さん！取材はどのようにして行われましたか？

(中沢) はい。それでは聞いてみましょう。坂岡アナ、取材はどのようにして行われましたか？

(坂岡) はい、みんなで一軒一軒食べ歩きました。おかげ様身につきました。

(中沢) いろいろ苦労した情報誌のようです。それでは小比類巻アナから一言感想をお願いいたします。

(小比類巻) はい。このセミナーのきっかけは、自分の意志ではない人もあると思います。今まで三沢市のまちづくりについて考えたことがなかった私たちが、いつしか三沢市のまちづくりという一つの目的に向かって、年齢や職業、考え方が違う方々と貴重な時間を調整し、何度も集まり情報誌の打ち合わせをして作成しました。とても有意義な時間をもつことができました。

(中沢) はい。ありがとうございます。今日は特別ゲストをお呼びしております。ご紹介してよろしいでしょうか？

(岩本) はい。どなたでしょうか？

(中沢) はい。同じ、情報誌の1班と2班の二方にお越しいただいております。はじめに、ワンコインで行こう、パッションズの富田アナから情報誌についてお伝えください。

(富田) はい。私たちの班は、100円バスのきらきら情報を調べる為、100円を握りしめバスに乗り込みました。三沢は春は公園の桜、夏は花に彩られる町、秋は街路樹の紅葉、冬は雪とイルミネーション、と三沢の良さ、のんびり三沢を再発見できるプチ情報を集めました。改めて、見直す三沢はとても素敵でしたよ。

(中沢) ありがとうございます。続きまして、何かできる会の木村アナからお願いいたします。

(木村) はい。私たちは、皆さんがどんな情報が必要か、そしてどんなことを望んでいるのか、本当に悩み苦労しました。たまたま班の中に、難病と向き合いながらいろいろな活動を積極的にしている人がいました。病気をしたからこそわかること、悩みを抱えている人の多いことを知りました。悩んでいるのは病気をした本人だけではなく、家族も想いは同じです。そこで私たちは、病気について心置きなく何でも話をすることができ、そして集える場所を紹介することにしました。誰かのために、そして私たちのために何かをしたいという気持ちから始まりました。

(中沢) いかがでしょうか？こんな感じで町の情報誌は作られました。スタジオの岩本キャスターからも参加した感想をお聞きしたいと思います。スタジオの岩本さん！

(岩本) はい。岩本です。忙しい中でも充実感があり、とても楽しい時間を過ごせました。今回、このセミナーを通して、三沢市の良さを発見する機会をいただき、貴重な体験をさせ

ていただきました。そして、私たちの願いは、この情報誌が三沢市にとどまらず、市内、
県外、そして世界へと発信できれば、ウィメンズヴィジョンとしての役割が果たせたかな
と思っております。これで、ウィメンズヴィジョンの紹介を終わらせていただきます！

【ウィメンズヴィジョン 代表 岩本 ヤヨエさんより一言】

普通のプレゼンというのは、パソコンを使ったりして堅苦しくやったりするものなんで
すけど、たのしいことをしたいなといつも私たち思うんですけども、こんな寸劇で報告会
を副市長の前でやったものです。それは、田中先生がすごく褒めてくださって、その褒め
られた気持ちが現在に至っております。こうやって何かをやるのが良いきっかけになっ
て、仲よくなって、そしてウィメンズヴィジョンという団体を立ち上げてしまいました。
地域活性化というよりも、自分たちが楽しいなと思うことをただ遊び半分にやっているだ
けなんですけども、その輪がこうして広がったのではないかと感じています。どうも、ご
清聴ありがとうございました。

◆講話◆

皆さん、こんばんわ。それでは、8時までお付き合いをお願いします。今回は、耳を傾けてい
ただきますが、次回はグループで活動ですが、街を元気にするには、自分たちがどのような
ことをやればいいのかということをグループでやっていきましょう。ただ、グループで活動
するときに、グループ名を決めたほうが呼びやすいので、最終的には何何グループさんとい
う感じで名前を決めていけばと思います。

今回、若い方もいてとても頼もしいというか、最近なかなか若い方が入らないので、とて
もうれしいということと、3年前にきたときに、ここはふれあいの館だったと思うんですが、今
は市民活動ネットワークセンターみさわに変わってるということで、すごい進歩というか、三
沢市がんばってるなという想いを抱きました。市民活動をするときにとても大事なものは、こ
ういう拠点があるかないかなんですね。弘前は、弘前市民参画センターというところがあるので、
男女共同参画のことをやりながら、ここにもあるように、有料でも安いお金で印刷ができる、
それから、メールボックスがあるとか、登録している団体がいかに利用しやすくしているか
という、拠点があるというのは市民活動の上で大事ですよ。ここからいろんなことに広がっ
ていく。ふれあいという名前もいいんですが、きちんとネットワークという名前を使ったって
いうのが、拠点の名前としていいなと感じました。常に変化していくというのが大事だと思
うんです。変わる勇気を持つていうんですが、変わるということは、学ぶと変わる。学びは変わる
ということにつながると思うので、これから寒い時期に入りますが、最後までお付き合いを
お願いします。

まず、どういう取組みをしてきたのか、ちょっとヒントになることをお話できればと思
います。それから、女性の視点からという具体的などうすればいいの？ということもお話
させていただければと思います。

〇いろいろな人たちとのかかわりを楽しむ

まず、街を変えるには、自ら自分の街が好きなんだ
ということPRする。街を好きじゃないと変えられ
ない。そして、いろいろな人とのかかわりを楽しむとい
うこと。自分が変わっていくし、楽しい。気づくこと
で新しい自分を知ることができる。

まちを変えるには 自らがまちを好きになることが近道

〇いろいろな人たちとのかかわりを楽しむ

さまざまな支援者たちとの出会いにつながりから、自分もか
わりを楽しめるようになり、気づくことによって新しい自分が開
かれていく楽しさを知る

〇NPO活動のミッション

保証された財源があるわけでもないのに、困っている人や社
会環境が危機にさらされているなら資金や人材がなくても、動
き出すという自発性から、成熟した市民社会の実現という新し
い公共の仕組みづくりに向かっている

〇まちづくりのキーマンをつなぐコーディネーター

それぞれ点で活動しているキーマンが、まちを変えるという課
題を共有し、解決に向かう共通意識を図るきっかけがあれば、
まちを変えていける関係づくりの編みなおしができる
そこで必要なのがコーディネートの育成である

○NPO活動のミッション

なぜ、NPO活動をやるか。保証された財源はないが、NPOとNPO、NPOと企業、NPOと行政をつなぐ役目（中間支援組織）にお金をおろし、そこでやってもらうという時代になってきている。ミッションとは、自分たちは何のために動いているのかということ。NPO活動や市民活動をやっている人は、自分たちがやろうとしている最初の目的に合っているか常に振り返る。

○まちづくりのキーマンをつなぐコーディネーター

まちづくりをするときに、活動する団体が点であったが、男女共同参画のネットワークの上十三の広域に入ることによって、点から点でつながり線となるが、それをつなぐには、コーディネーターをする人が必要。今回は、青森県と津軽広域がコーディネート役となり、上十三広域の男女共同参画ネットワークができた。全国で初の取組み。街を変えていくには、つないであげるコーディネーターが必要であり、その育成をするのが行政。

○1億円ふるさと創生基金の活用術

国はふるさと創生基金として、各市町村に1億円を出資した。弘前市では、市長や部長たちが、市民がどういう活動に参加できるか考え、人づくりに活用し、このセミナーのように、塾を作った。

○塾生を育て、卒塾生が地域づくりにかかわる仕組み

ひろさき創生塾が4年かけて1期から4期まで80人が卒塾した。次に男女共同参画の基本法ができ、日本の男女共同参画の歩みを進めるため、きらめき女性塾を創設し、4年で111人が卒塾した。青年プロジェクト塾は、地域で頑張っている青年たちに何かやれないのかということで、1期10人で、ひろさき創生塾ときらめき女性塾の卒塾した人をアドバイザーにして、青年たちにやりたいことをどのようにしてやっていけるかをアドバイスしていった。ここで関わったのが、行政、各活動している市民、大学講師。行政だけではなく、市民も入ってコーディネーターをすることが大事。

まちづくり活動のキーマンをつなぐ

○弘前市の事例

1. 1億円ふるさと創生基金の活用術

- (1) 人づくりにだけ基金を活用
- (2) 市民が社会参加をするという種まき

2. 塾生を育て、卒塾生が地域づくりにかかわる仕組み

- (1) 「ひろさき創生塾」 1995年4月から1999年3月
- (2) 「きらめき女性塾」 1999年4月から2003年3月
- (3) 「青年プロジェクト塾」 2003年4月から2006年3月

○ひろさき創生塾

宵宮のアップルパイのマップとして弘前見探図を作成した。FMアップルウェーブ放送開設にも関わった。(株)アップルウェーブの会社とNPO法人コミュニティネットワークCASTが協働で放送。弘前の出身の奈良美智さんが弘前にある吉井酒造倉庫で展示会をやりたいということで開催した。ファン600人ボランティアで集まり、会場設営ができた。最初は、10人が自腹で運営したが、3回やった中で、3,000万円の収入を得た。そのお金でNPO法人harappaを設立した。台風19号で、街が暗くなり何とかしたいという想いで、弘前市の職員が1口1,000円を募り、イルミネーションを灯した。エレクトロカルファンタジアを設立し、今は職員と企業やNPOが関わるようになった。

○男女共同参画きらめき女性塾

きらめき女性塾を卒業して、さらに青森県女性大学で勉強をした方が中心となり、男女共同参画研究所ができた。(きらめき女性塾を例えて高校、青森県女性大学を例えて大学) 環境ミ

卒塾生から拓がったまちづくり

まちづくりにかかわる官民のキーマンがコーディネート

- 企画課 ひろさき創生塾 Ⅰ～Ⅳ期 80人
- ・弘前見探図(みたんず)(宵宮のマップ・アップルパイのマップ作成)
 - ・FMアップルウェーブ放送開設
 - ・NPO法人コミュニティネットワークCAST設立/FMアップルウェーブ放送と協働
 - ・奈良美智展のボランティア実行委員 ~ NPO法人harappa 設立
 - ・弘前市職員有志によるエレクトロカルファンタジア設立・冬の風物詩イルミネーション
- 企画課 男女共同参画きらめき女性塾 Ⅰ～Ⅳ期 111人
- ・NPO法人青森県男女共同参画研究所設立
 - ・情報ネットワークグループ「リエゾン」(環境ミュージカル)
 - (2005年4月 中央公民館「子どもミュージカルクラブ」発足につながる)
 - ・市民参画センター併設「子育てサポートシステム」(弘前市さんかくネットにつながる)
- 中央公民館 青年プロジェクト塾 Ⅰ～Ⅳ期 40人
- ・サブアドバイザーに、ひろさき創生塾・きらめき女性塾の卒塾生を起用
 - ・NPO法人スボネット弘前設立 ・くもカル弘前実行委員会「またたび」

ージカルをやるグループの存続のため、中央公民館の子どもクラブを追加し、子どもミュージカルクラブができた。市民活動と男女共同参画の拠点となっている市民参画センターと、子育てサポートシステムが協定を結び、子どもを一時託児したり、病後の子どもを預かって支援している。現在は、さんかくネットとなり活動している。

○青年プロジェクト塾

1期生は10人という少ない人数だったが、中にはスポーツでまちづくりをしたい、スポーツが嫌いな子や高齢でもスポーツを楽しむことができるまちにしたい、という塾生がいた。その卒塾生がNPO法人スポネット弘前を設立。また、まちの中に映画が好きな女性がいて、商店街で映画を上映したいという想いで、くもカル弘前実行委員会またたびを立ち上げ活動している。卒塾した方々が、自分の関心のあるところに行き、いろいろなアドバイスをいただきながら、立ち上げていったということが弘前の市民活動の歴史である。

弘前創生塾の直接の卒塾生ではないが、アドバイザーということで、行政職員として入りながら、いろんなことを勉強し人と出会い、出会った人とのつながりから、さらにそのつながりを大きくしていった。

○中央公民館「子どもクラブ」に「子ども小鼓クラブ」「子どもミュージカルクラブ」を追加

講師自身のつながりから小鼓の先生と知り合い、先生のこの伝統を後世の子どもたちにつなげていきたいという想いから、子ども小鼓クラブが立ち上がった。国が注目し、国の助成金をもらって小鼓を買った。

○文化会館「ギャラリーネットワークひろさき」設立

弘前の文化センターの中にNHKの文化センターがあり、そこの支社長さんに関わりを持ち、文化センターのギャラリーやNHK文化センターのギャラリーなどたくさんあるが、バラバラで使われている為、お互いに何をしているか情報が伝わらない。そこで全部が点になっている部分を線にして有効活用するため、1年かけてギャラリーネットワークひろさきを設立した。

○市民会館・駅前市民ホール

ギャラリーネットワークひろさきの音楽版を作ろうということで、当時高校の先生を退職し、若い演奏家を育てていた方とつながり、音楽ネットワーク弘前を26の団体で作った。それにより、いろんなことが始まった。仙台にたくさん音楽の団体があることを知り、街角コンサートという名前をつけて、無料でやっていただいた。音楽ネットワークを作ったことがきっかけで、弘前市から委託を受け、街角コンサート、お出かけコンサート、弘前音楽祭をやることになった。文化庁の長官が、日本のボランティアは福祉というイメージがあることから、ボランティアが長く続かない悩みがあり、あえて文化ボランティアという名前で本を出した。その本では、市民会館のドアマンや案内役、何かイベント等があったときにサポートをするということも、ボランティアの一つであり、気が付いたら人の役に立っている。そういう考えも文化ボランティアである。と書かれている。市民会館で導入できるのでは?と思い、広報で募集を募り、30人の登録希望者があり、文化ボランティアガイドを作った。

文化芸術活動のキーマンをつなぐ

- 中央公民館 「子どもクラブ」に
2002年「子ども小鼓クラブ」「子どもミュージカルクラブ」追加
- 文化会館
2003年「ギャラリーネットワークひろさき」設立
公営民営51ギャラリーがネットワーク
- 市民会館・駅前市民ホール
2005年「音楽ネットワーク弘前」設立 (26の音楽団体)
2006年「海外交流コンサート」「街角コンサート」開始
駅前市民ホール「ほっとコンサート」開始
2007年 各小・中学校へ「出前コンサート」開始
2008年「弘前音楽祭」開始
街角コンサート・お出かけコンサート定着
- 2005年「文化ボランティア導入」・文化ボランティアガイド作成
2011年「文化ボランティア協会」設立

音楽ネットワーク弘前でつながった方たちと一つまちの中でやり始めたのは、国際子ども文化芸術交流実行委員会。

子どもたちに、テレビを見ただけの世界観ではなく、生で外国の子どもたちと交流できる場がほしいと思っていたら、オペラ歌手で、手話を交えて子どもからお年寄りの合唱隊を作り活躍している人が、中国との国際交流を札幌で見てきて、弘前でやりたい、子どもたちに文化芸術で世界観を経験してほしいということで、韓国との文化芸術交流ができた。

2回目に、きらきらセミナー1期生とのつながりから、三沢少年少女合唱隊を弘前市民会館に招待し、アメリカンファミリーとの交流ができた。

3回目は、震災でお休みした。日本は原発で放射能で覆われているという世界の意識から、日本に子どもたちを出したくないと断られた。その後、黒石にインドネシアからきたお嬢さんと出会い、日本の放射能は大丈夫だと伝えることができ、今年の7月インドネシアの子どもたちとの交流ができた。

○セミナーハンサムウーマン発足

県の尊敬する女性課長さんが退職したときに、みんなでいろいろ活動しているのに、何の情報交換もしていない。お互いの情報交換をする会を作ろうということで、一緒にセミナーハンサムウーマンを発足した。

ハンサムウーマンは、知的で社会に積極的に関わろう自分の責任において行動し、何があっても他人のせいにはしない、潔い人たちをいう。

設立目的は、情報交換をして、ネットワークをして、何かあるときは一緒にやる。ネットワークというのをちからコブにして、社会貢献をしていく。

飲食をしながらゲストの話の聞いたりして、情報交換をしてきた。学びを入れるために呼ぶゲストには、飲食を理解してもらい、謝礼なしでお願いした。

○日独草の根文化交流

名古屋の男女共同参画のNPO法人とのつながりから、ドイツのエカンフェルデという3万人都市との海外交流ができた。日本の公民館の文化祭での作品展をドイツでやった。津軽の民芸工芸の作品を販売した。

○コラボレーション（協働）

文化ボランティアの文化庁との関わりから、文化ボランティア全国フォーラムを立ち上げた。文化庁から190万円いただき、弘前のまちを全部めぐる試みをした。

○東京タワー弘前りんごまつり

文化ボランティアフォーラムで、六本木ホテルアイビスの中にある、六本木探検隊と出会った。そのホテルでは月1回安く宿泊でき、六本木の探検ができるイベントを企画。六本木ホテ

出合い つながった人たちとのプロジェクト

2007年9月 「国際子ども文化芸術交流実行委員会」設立
国際子ども文化芸術交流Junior Artist Festival 開催
主旨

1. 世界各国の子ども達と日本の子ども達が文化・芸術活動を通して、お互いの理解を深め、地球は一つ、世界は一つ、友だちの輪を広める
 2. 子ども達が明るく健やかに成長することは人類共通の願いであり、ステージを通して 貴重な経験を積み、自己を確立、行動に責任を持ち、未来を担う若い「翼」に、大きく羽ばたいて欲しい
 3. 弘前市・青森県の子どもの文化発展と芸術による国際交流を目的とする
- 第1回(2009年7月) 韓国果川市清溪初等学校との文化芸術交流
 - 第2回(2010年7月) 三沢少年少女合唱隊・アメリカンファミリーとの交流
(まち・きらきらセミナー1期生とのつながりから)
 - 第3回(2012年7月) インドネシアバリ島・ドゥカン市との文化芸術交流
(各助成金と協賛金・翼基金活用)

情報交換交流～ネットワークにつながる事例

- 1994年2月18日 「セミナー・ハンサムウーマン」発足
- 「ハンサムウーマン」とは
知的で社会に積極的に関わろうとする姿勢があり
自分の責任において行動し、何があっても
他人のせいにならない 潔い人たち！
- 設立目的
世代を超えて学び、出会ってつながって新しい人間関係をつむいでいき、各自が独自の活動を創りだしながら、地域活動をコラボレーションし、ネットワークという「ちからコブ」のスキルアップと社会貢献する仲間の会である。
- 会員 現在72名登録(女性:54名・男性18名・20代～70代)
偶数月第3水曜日夜・20名～25名が集い学び・情報交換
会場 会員経営の「うちごはんカフェ・エレン」
(飲食OKの夕食3000円)・謝礼なしOKのゲストに学ぶ！

セミナー・ハンサムウーマン 活動

- 2000年11月 日独草の根文化交流
名古屋の元NPO法人「ウイン女性企画」とのつながりから
北ドイツエカンフェルデ市へ、会員18人参加、津軽の民芸工芸展開催
- 2007年 8月 コラボレーション(協働)
文化庁委嘱事業(文化庁の助成金190万円活用)
「第3回文化ボランティア全国フォーラムin弘前」
- 2010年11月 東京タワー弘前りんごまつり
文化ボランティア全国フォーラム実行委員会～
六本木ホテルアイビス～東京タワーとつながる
- 2011年8月・10月 岩手県災害支援拠点施設
遠野まごころネットへ届ける
弘前実業高校生作成のひばの枝(ハンサムウーマンのつながり)

ルアイビスと六本木探検隊とつながったことから、探検コースにある、東京タワーとつながりから東京タワーで弘前のりんごまつりを開催した。

○岩手県災害支援拠点施設 遠野まごころネットへ届ける

ハンサムウーマンでつながったのは、災害支援。岩手県の遠野は市役所も全壊したが、遠野から他の被災地へ1時間くらいで行けるという場所で、遠野にボランティアの拠点センター、遠野まごころネットができた。被災地で寝具がほしいという声があり、寝具一式を用意したが、枕がセットになっていないことがわかり、ハンサムウーマンの定例会で、メンバーにいた弘前実業高校の先生に相談し、家庭科クラブの生徒にひばの枕を作ってもらった。

文化ボランティアは、日本を元気にということで、元文化庁長官が提唱した。

三沢は国際色豊かだけではなく、文化とつくものがいっぱいある。文化を活用してほしい。

文化をさかんにしよう、こころを豊かにしよう、好きなことで人生を楽しくしよう、文化芸術に自ら親しむと親しむものに役立つし、それもボランティア。組織をがんじがらめにしない。ゆるやかな組織をつくる。若い人たちを引き込んでいく。そうして人とのつながりができる。文化ボランティアの交流が日本を元気にする。

文化庁委嘱事業「文化ボランティア全国フォーラム」

「文化ボランティア」とは

“文化ボランティアで日本を元気に”と

元文化庁長官・河合隼雄氏が提唱

1. 文化をさかんにする活動
2. 「こころ」を豊かにする活動
3. 好きなことでもっと人生を楽しくする活動
4. 文化芸術に自ら親しむとともに、他の人が親しむのに役にたったり、お手伝いをするボランティア活動
5. 個の確立と新しい公の創出
6. ゆるやかな組織、ネットワーク型
7. 大学生や若い人を引き込む世代間の交流
8. 文化ボランティアのグループ同士の交流

文化ボランティアが文化庁からお金をいただき、国立女性会館で実行委員会を全部で4回開催した。キーワードとして、行政とボランティアのパートナーシップ、次世代を育てる時代、地域にこだわって市民力形成していこうということで弘前で開催。

東京はいろんな区があるが、つながりがない。足立区から始まり9区をつないだ。市民の自己実現が大事。

ネットワークがあることで、フォーラムが開催できた。スポネット弘前、h a r a p p a などそういうつながりがあったから、分科会を委託してやることができた。一人ではできない。つながりがあるからできる。つながることができるコーディネータがないとできない。8つあり、弘前のまちを歩いてもらうため、全部ばらばらに開催した。

1. 2006年 3月 第1回 国立女性教育会館で開催
集約されたキーワード「行政とボランティアのパートナーシップ」

2. 2006年12月 第2回 国立女性教育会館で開催
集約されたキーワード「次世代を育てる地域」

3. 2007年7月31日～8月2日 第3回 弘前がまるごと文化博物館
集約されたキーワード「地域にこだわり、市民力の形成へ」

4. 2008年10月30日～11月1日 日本橋劇場・江戸東京博物館
東京 足立区・墨田区・新宿区・中央区・港区・豊島区・文京区・世田谷区・大田区の各会場
集約されたキーワード「市民知の蓄積・自己実現」

キーマンネットワークで開催できた

「文化ボランティア全国フォーラムin弘前2007」

<テーマ> 文化ボランティアの未来
めざせ！地域がまるごと文化

○地域に根ざし、地域のあらゆる世代を巻き込み、子どもにつないで守り続けている“ねぶた”を体感してもらいながら

「次世代を育てる地域」を考えるフォーラムを開催

- 分科会
- (1) 子どもたちに自然と地域文化を
 - (2) 地域の学習(実習)拠点をみんなで創る
 - (3) 文化ボランティアとまちづくり
 - (4) 博物館・図書館を楽しんじゃおう
 - (5) アートが街にもたらすもの
 - (6) 気がつけば文化財
 - (7) 舞台へあけたい舞台裏(映画・演劇)
 - (8) 若者たちの文化ボランティア観論

最後に・・・

いろいろな人たちと出会ったことから、何か物事を考えるときに、子どもを真ん中においた視点が必要。

女性の視点とは、男女共同参画の基本で、女とか男とかとらわれず、個人がやりたいことをやる。自分の生き方は自分で決める。

これからセミナーを進めていく上で、ストレスをためないで声に出す。思いやりや愛することは忘れてはいけない。常に感動する。楽しい事を10個見つける。

聞く人の立場を想像する。いろいろな人たちとの出会いは、自分を好きになる。つながることが楽しくなり、動き出していく。

～最後に田中氏より～

グループ名を決める時間がなかったため、次回までの宿題。名前の候補を考えてくる。

◆閉会◆

◆事務局からの連絡事項◆

次回のきらきらセミナーは来年1月11日（金）18時から20時までで、市民活動ネットワークセンターみさわで行いますので、よろしく願いいたします。

- 仕事やNPO活動にかかわってから
国内外のいろいろな人たちと出会ったつながりから、子どもを真ん中においた視点で、年を重ねながら私の生き方になっている
- 女性の視点からとは
女だから男だからにとらわれないで、個人のやりたいこと、その人の関心や思いを大事にすることが、個性と能力を発揮することではないだろうか。
私は私らしく、あなたはあらたらしく、自分を尊重して人とともに生きる力をつけていって自分の生き方は自分で決める。
未来につながる子どもたちの人生が、そんな人生であることを願う

1. ストレスは溜めておかない
2. 汗をだし、声をだし、涙をだし、快便しよう
3. 思いやりと愛することは、使わないと忘れてしまう
4. いっぱい感動しよう
5. どんなにちっほけなことでもいいので、楽しかったことを10見つけよう
6. “食パンの耳”聞く人の立場を想像する聞く耳・パンの耳を磨く
7. いろいろな人たちとの出会いは、自分が好きになり、つながることが楽しくなり、そして動き出していく

以上、平成24年12月14日（金）開催の「まち・きらきらセミナー」の概要報告といたします。